

平成29年度
第3回東久留米市
総合教育会議議事録

平成29年11月10日

東久留米市・東久留米市教育委員会

平成29年度第3回東久留米市総合教育会議

平成29年11月10日午前11時10分開会

市立中央図書館 視聴覚ホール

- 議題 (1) 市立中学校の生徒の国語力向上について
(2) 平成30年度予算(教育費)について
-

出席者(5人)

市	長	並木克巳
教	育	長
委	員	直原裕
(教育長職務代理者)		尾関謙一郎
委	員	宮下英雄
委	員	細川雅代

欠席者(1人)

委	員	細田初雄
---	---	------

東久留米市教育委員会会議規則第13条の規定に基づき出席を要求した者の職氏名

企画経営室長	佐々木弘治
企画調整課長	長澤孝仁
財政課長	秋山悟
教育部長	師岡範昭
指導室長	穴戸敏和
教育総務課長	小堀高広
学務課長	島崎修
生涯学習課長	市澤信明
図書館長	岡野知子
主幹・統括指導主事	荒井友香
東中学校校長	松田正

事務局職員出席者

庶務係長	鳥越富貴
------	------

傍聴者 2人

◎開会及び開議の宣告

(開会 午前11時10分)

○並木市長 ただ今より平成29年度第3回総合教育会議を開催します。本日は教育長、教育委員の皆さんにお集まりいただいています。

◎傍聴の許可

○並木市長 傍聴の方がお見えになっていますので許可したいと思います。よろしいですか。
(「異議なし」の声あり)

それでは傍聴を許可します。暫時休憩します。

(休憩 午前11時11分)

(傍聴者 入室)

(再開 午前11時12分)

休憩を閉じて再開します。ここで傍聴の方にお願ひがあります。傍聴していただくに当たりましてはお手元にお配りしている「教育委員会傍聴人規則」を準用させていただきますので、ご了承願ひます。なお、お配りしている資料についてはご入用の場合はお持ち帰りいただけます。

◎市立中学校の生徒の国語力向上について

○並木市長 本日の議題であります「市立中学校の生徒の国語力向上に向けて」に入ります。本市の学力向上は喫緊の課題であり、その中でも学習を支える力として、教科書を理解し、自分の考えを表現する力、すなわち国語力が学校の教育活動全般に必要であることから、昨年度来、国語力向上が必要であるという考えを私も発信してきました。

先ほど、東中学校で国語の授業を参観してきました。そこでは生徒が自分の考えを自分なりの言葉で述べることができていると思います。自分の考えを、データと根拠を明確にして述べる力は、社会で活躍する上で基礎となる力になります。

それでは会議に先立ち、参観した授業の概要について指導室長から説明していただきます。

○穴戸指導室長 本日は中学2年生の国語の授業を参観していただきました。ほかの人の意見を聞き、新たなものの見方や考え方に気づくパネルディスカッションの学習です。生徒たちは前回の授業までに、教科書の教材である「君は『最後の晩餐』を知っているか」という文章を読み、筆者の物の見方や考え方を読み取り、併せて自分の知識や体験と関連付けて考えをまとめる学習を行ってきました。この文章は筆者である布施英利氏が、有名なレオナルド・ダ・ヴィンチ作の「最後の晩餐」を見た時に「カッコいい」という感情を持ったものです。その「カッコいい」という自分の感情の動きがどこから来たものかを論理的に分析しており、大変興味深い文章です。今回の授業ではこの学習を踏まえてタブレットパソコンを一人1台活用しながら、司会者や発表者を決めて話し合い、異なる意見や視点に触れ、自分の考えの幅を広げようとしていました。

平成29年3月に公示された新学習指導要領では、国語科で新しく取り扱う項目として、「情報の扱い方」が加えられました。話や文章に含まれている情報を整理したり、情報と情報の関係を捉えたりすることは、国語科において育成すべき重要な資質、能力の一つであるとされています。本日の授業はこの項目に先進的に取り組んだものです。パネルディスカッションの経験がほかの人の考えを知るきっかけになったり、自分の考えを見直す契機になったりしたかが授業の見どころです。

○**並木市長** ありがとうございます。中央教育審議会において、児童・生徒たちが「教科書の文章を読み解けていない」との調査結果があることが報告されています。話や文章に含まれている情報を着実に理解することの重要性は、昨年度、本会で教育委員の皆さんとともに指摘したとおりです。

本日の授業をご覧になって、皆さんの率直な感想などを伺いたと思います。

○**細川教育委員** 先ずは授業を行っていただいた前川先生にお礼を申し上げます。中学2年生は思春期真っただ中にいます。そのような子どもたちがどのような意見を出していくのか、どのように意見交換が深まっていくのか、とても期待して授業を見させていただきました。

今日のような授業をするには相当な事前準備が必要になると思うのですが、その成果が本日の授業にはとても出ていたと思いました。自分の言葉で意見や考えをきちんと述べようとしていたことは、とても良かったと思います。また、中学生の時からタブレットを使って対話したり、授業を体験できることはこれから社会に出ても会議などにも役立っていくと思って、半分うらやましいなと思いつつ参観させていただきました。新学習指導要領の中では、「主体的・対話的で深い学び」が求められていますが、生徒が「深く考える」ということを教員がどのように見て評価していくのか、とても考えさせられました。

○**並木市長** 私も参観して、生徒たちが主体的に学ぶ姿勢を大いに感じ取ったところです。

自分一人で分かったつもりになっても、ほかの人にうまく説明できないということはよくあることだと思います。対話的に学ぶことで論理性も学べると思います。「深い学び」ということについてご意見をいただければと思います。いかがでしょうか。

○**宮下教育委員** 学ぶ、または学びという行為は単に知識を習得することに止まらず、それを活用して自ら探求することで、より深まりが見られてきていると考えます。また、他者との協働や外界との相互作用のある、対話的な学びの過程を経ることによって、自らの考えを広げたり深めたりすることができると考えられます。学びの本質として大事な点は何かについてですが、中央教育審議会でも論議し整理されている「学びの主体性と対話性」「深さ」の観点です。学ぶことに興味、関心を持ち、見通しをもって振り返り、つなげていくという主体的な学び、自分の考えを他者との対話の中で広げていくという対話的な学び、学んだことを活用しながら新しい知識の獲得につなげていくという深い学び、これら三つの視点が重要だと考えます。特に深い学びに関しては、今までは「習得、活用、探究」という各教科共通の中で考えて説明されてきましたが、教科を学ぶ本質的な意義を深めていく中では、教科の特性を生かした見方や考え方を取り入れた学習過程による学びが注目されています。これら三つの視点は、学びの過程としては一体として実現されるものですが、それぞれが相互に影響し、展開されるものと考えます。相互のバランスに配慮しながら学びを推し進めていくことが、「深い学び」の姿だと考えています。

○**並木市長** ただ今、宮下委員から「深い学び」についての考え方をまとめていただきました。

さて、本日の授業は深い学びに向かって指導されているということですが、東中学校の松田校長先生の見解もお聞かせいただければと思います。

○**松田東中学校長** 本日は本校の授業を参観していただきましてありがとうございます。本日の授業者である前川智美教諭は、初任者の研究または研修を行っている東京教師道場で学んでいまして、2年目になっています。道場で学び、新学習指導要領に沿った学習活動を展開し実践していきまして、先日も本市の授業改善研究会において研究発表をさせていただきましたし、昨年も道德の授業で研究発表をさせていただきました。

ただ今、テーマになっています「深い学び」の実現に向けては以前からさまざまな思考ツ

ールが出ていますので、それを授業の中で試しています。特に、今回は、ロジックツリーというものを使って生徒の思考を深める手法をとっています。先ほど画面にも出ていましたが、三角ロジックというものです。一つの結論に導くものに対してそのデータと根拠を三角形に結び付けてどんどん結論を出していくという手法です。どんどん三角形をつなげて広がっていきますので、次第に樹木のようになっていきます。それでツリーという言葉になっているのですが、生徒が普段考えていないようなところまで考えを深めていけるという手法が今日展開されていたものになります。さらに、その実践を手助けするものとして、本日はICTを活用させていただきました。特にタブレットパソコンを活用しましたが、生徒の考えを同時に数として集約したり、または「誰が、どのような意見を持っているのか」を全員が分かる形、見える形にできますので、授業の効率化には非常に有効な手段であることがご覧いただけたかと思います。

小学校の段階では「筋道を立てて考える」ことが小学校において授業を深めていく手法だと思いますが、中学校の場合は「論理的な思考で深めていく」ことになります。今回の指導要領の内容にあるような、根拠とそれに対する意見、または原因とそれに対する結果という形で物事を見ていくという見方や考え方を生徒が学ぶことができたと思っています。

今日の授業の中で一番のポイントとさせていただいたのは、最初の意見と最後の意見で生徒がどのように意見を変えたのか、また、どのような理由から意見を変えたのか、その理由の部分に焦点を当てたということだと考えています。

○並木市長 本日の授業では、タブレットパソコンにはこういった使い方があるということも見せていただきました。

それでは、東中学校では国語力向上に向けて、どのような取り組みを進めているのか伺いたいと思います。

○松田東中学校長 東中学校では1学期の学力調査の結果から、書く力をもう少し伸ばさなければならぬという課題が浮上しました。学年によっては新聞の社説等を書き写すことで書く力を伸ばそうとしたり、原稿用紙1枚だと400字で大変ですので半分の200字にして「200字作文」という形で毎回作文を書くという取り組みをして書く力を伸ばしてきました。しかし、今回の研究授業にもあるように、ただ「書きなさい」と言っても何を書いているのか分からないという場合もありますので、一つの物事についてその理由を考えて自分なりの意見を書く。この部分を教えていかなければ書く力につながっていかないのではないかと、今回のロジックツリーや思考を地図に表すマップのようなものがあるのですが、そういった手法を用いて書く力をとにかくつけていくという取り組みを行っています。また、本日の授業の時に、支援員として生徒の間を巡回していた教員が一人いました。週に三日間ほどこの支援員を入れて、個々の生徒の国語力の対応についての支援もしています。

○並木市長 学校での取り組み、また、新しい学習指導要領等の中での主体的、対話的で深い学びについての全体的なこと伺えたと感じています。これまでのお話を伺っていますと、言葉で話す、聞く、相手の伝えようとする内容をよく理解できるという能力が大変重要だと感じてきました。本市の目指す国語力の向上は、これからの学校教育でますます重要な位置を占めると考えています。

そこで、昨年度の1年間についても教育委員会では国語力向上に取り組んでいますので、本市の学力の現状はどうかを伺いたいと思います。

○宍戸指導室長 今年4月に実施された「平成29年度全国学力・学習状況調査及び市学力調査の結果について」というA3版の資料をご覧ください。小学校は6年生、中学校は3年生

を対象とした調査になります。小学校では、主に基礎的な知識を問うA問題においては、正答数の多い層が厚くなってはいます。しかし、活用を中心としたB問題では正答数が少ない層が厚くなっています。これが現状です。本市の平均正答率を見ますと、国語A、B、算数Aでは全国平均を上回っています。昨年度は全ての調査で全国平均を下回っていたことに比べると、着実に成果を上げているのではないかとと言えます。とは言っても東京都の平均と比べますと、まだまだ課題が多いと捉えられます。

中学校では、平均正答率では数学Aが全国平均を上回っています。その他についてはまだまだ改善の余地があると言えます。

小学校については、昨年度から国語力向上に向けて取り組みを行っていましたが、中学校については今年度から取り組みを始めたところです。次年度の全国学力・学習状況調査の結果が伸びることを期待しながら、現在、取り組みを進めているところです。

○**並木市長** 「効果は徐々に上がりつつあるが、まだまだ改善の余地が大きい」というところだと思います。引き続きの努力が必要とのこと。

調査結果についてですが、要因として考えられることがあるのか伺います。

○**穴戸指導室長** 資料3枚目の「平成29年度児童・生徒質問紙調査の結果【小・中学校】」をご覧ください。全体では80項目ぐらいありますが、その中で特に傾向の顕著な生活習慣と学習習慣のそれぞれ4項目ずつについて掲載しています。右側の学習習慣を見ていただくと、一番上、「学校で好きな授業がありますか」という質問に対しては、小学校では全国よりも「そう思う」率は多いのですが、中学校では残念ながら全国よりも低く、非常に大きく減少していることが分かります。教科の内容が小学校から中学校に上がると一気に難しくなることが要因としては考えられますが、教員が分かる授業を展開し、子どもたちの意欲を引き出す必要があると考えられます。また、家庭学習についてですが、「家で学校の授業の復習をしていますか」という項目についても、家庭学習についての意識が本市においては小・中学校ともに低い状況になっています。やはり、家庭と連携して学習習慣を定着させていく必要があると考えられます。さらに、生活習慣を見ていただくと「自分には良いところがあると思いますか」というところでは、自尊感情が全国に比べても低いことも分かります。こういったところから課題を捉え、また、改善しなければならないことが幾つか考えられると思っています。

○**並木市長** ただいま意識調査の結果の報告がありましたが、本市の子どもたちの日常生活の特徴などもこういった結果からも分かってきます。このことは学校だけでなく、地域や保護者の方々とも協力していく必要があるのだと思います。好きな授業のある子が少ないこと、家庭学習の実践が全国よりも低いことは残念です。子どもたちがもっと自信を持って生き生きと学んでもらいたいと思いました。

一方、学校の教員の方々が非常に忙しく、疲弊されているという報道もよく耳にします。しかし、学力向上にはしっかり取り組んでほしいと思います。学校の授業に十分な時間がとれないようではいけないと思いますが、皆さんのご意見を伺いたいと思います。

○**尾関教育委員** 今、市長からもお話がありましたが、意識調査の結果で、本市の子どもたちの自尊感情が全国平均や東京都の平均よりも低いということが気になりました。現状では目立った大きないじめ問題は出ていませんが、自分自身を大切しないと他人も大切にはできないと思いますし、そういうことがいじめ問題につながっていくと言われていています。気をつけていかなければならないと思っています。

また、家庭学習の学習習慣も不十分ということですが、これも学校、教員だけではなく、

地域や保護者も一緒になって子どもたちと向かい合っていくことが必要だと思っています。それにしても、学校の教員が非常に忙しく、保護者や地域との関わり合いの時間や場を持つのはなかなか難しい現状もあると思います。報道によると、東京都では来年度から給食費の徴収などは教員だけが担うのではなく、事務職員も担えるようにするなどの改革をしてみました。本市の教育委員会でもこの議論はしょっちゅうしていきまして、いろいろな対策をつくっていききたいということです。教員が子どもたちの教育に全力を注げるためには、ほかのさまざまな周囲の事務部門にとらわれているという状況では本来の教育ができません。保護者や地域をも巻き込んだ教育はできないと思いますので、教育委員会としてもこの問題については議論をしていききたいと思っています。先生の働き方改革をめぐる問題には中学校の部活問題などもあり、単なる事務的な問題以外にもいろいろ問題があると思います。そのことについても議論をし、さまざまな取り組みを考えていききたいと思っています。

○並木市長　さまざまな課題も含めてご意見をいただきました。子どもたち一人ひとりを大切にする教育の実践を今後とも期待していききたいと思っています。

○直原教育長　今日は新しい国語の授業を見て、ほかの委員の皆さんもそうだと思いますが、とても驚きました。国語の授業がこういうふうに変っていくのか。新しい学習指導要領の本格実施はまだ先ですが、もう既に新しい姿に向けて現場は走り出していることが分かりました。今までの授業のやり方を相当に変えていかなくてはいけない。そういう点で、一人ひとりの教員が大変努力しているのがよく分かりました。先ほど尾関委員からも話がありましたように、そういったことができるような条件整備をわれわれはしていなくてはならないと思いました。

それから、先ほどの授業に関わって申し上げますと、しばらく前の新聞記事に日産自動車の執行役員がインタビューに答えている記事がありました。日産自動車の社内を念頭に置きながら、その執行役員が、会社がグローバル化すればするほど日本人社員の出番がなくなってくる。周辺的な仕事しか与えられなくなってしまう。なぜかと言うと、「日本人社員はいいものを持っているのに自分の考えを明確に述べないので、仕事を与えられなくなってしまう」というのです。その方は中教審の委員もしておられる方なので、教育の段階から相当に頑張っていないと大変なことになる、そういう警鐘を述べていました。それで、今日の授業を見まして、もちろんまだまだ改善すべきところはあるのですが、理由と事実の裏づけをもって自分の意見を述べる、パネルディスカッションの中で全ての生徒にそれが求められていて、生徒の皆さんも今までとは違う、一人一人が何でそう思うのかということ問われる授業だったので、そういう実践を通じて少しずつ新しい学習指導要領で求められている論理的な思考力というものが少しずつ身に付いていくのかと感じました。今日は教師道場に行っている教員の授業でしたが、ベテランも含め、新しい、今求められている指導方法について身に付けて実践して行ってほしいと強く思いました。

○並木市長　「授業とはもはやあのように進化しているのだ」との感想を持ちました。先生方も大変だと思いますが、これからも一人ひとりを大切にする教育を充実させ、工夫していただければと思います。

この件は以上で終わります。

◎平成30年度予算（教育費）について

○並木市長　次の議題に入ります。議題の二つ目「平成30年度予算（教育費）」についてです。本格的な予算編成の前ですが、基本的なご意見をお聞かせいただければと思います。何

かあればご発言ください。

○尾関教育委員 学力の向上と施設整備という2点についてお話ししたいと思います。

今日、国語の授業を受けて教育長からもご意見がありました。私も既に新しい国語の授業が行われているのだなと思いました。子どもたちは次のレベル向上に向けても意欲的なことを言っていましたし、なかなかああいう発言はできないでしょうから、成果が上がってきているのだと思います。本市は平成28年度から国語力ステップアップ学習事業に取り組み、29年度では中学校でも展開しています。国語に特化した学力向上指導員を小学校3校、中学校2校にも配置しているということです。しかし、今日のような先進的な授業はもちろん必要ですが、先ほど指導室長から説明があったように、残念ながら全国学力学習状況調査ではまだまだの結果ということでしたので、基礎的な知識が習得できる授業も必要だと思います。東京都の平均よりは全てにおいてほぼ下回っているということですので、全国平均と比較すること自体、あまり意味がないことなのではないかと思っています。東京都内である程度同じ地域環境にある中で東久留米市が下回っているということについては危機感を持つ必要がありますし、特に、国語の問題についても取り組んでいかなければなりません。全国と比較するのではなく東京都の平均と比較しながら、特に、国語力について努力していかなければならないと思っています。新学習指導要領でも、国語力向上について30年度も継続して取り組むとありますので、一層、国語力向上のためには東京都平均を上回るぐらいの水準に行くために予算を確保しなければならないと思います。ぜひ他市や区部との比較もあるので、市の競争力という点からも予算はぜひ確保してもらいたいと思います。英語について申し上げます。英語及び外国語活動の指導力を上げる必要があるということから、30年度の夏季研修ではALT委託業者による研修を、本市が派遣した英語教育推進リーダーによる還元研修に切り替えて、小学校教員の英語指導力向上のための研修をさらに充実させたいと思います。また、学習習慣の確立のためには、国の地域未来塾制度を活用し、中学校へ学習支援員の配置をしたいと思います。

次に、老朽化した学校施設について申し上げます。先日、公開授業を参観する際に小・中学校を回りました。教室は、中学生に対して「ちゃんと教室の中で勉強しなさい」と言えないような状況で、壁などもすごく老朽化しています。先生もそうですが、児童・生徒の勉強への意欲を削ぐのではないかと思うぐらいの建物もあります。施設整備プログラムを策定していますが、これから具体的に実行していくためにも、ぜひ、31年度に予定されている工事の前年度設計について確実に予算化してもらいたいと思っています。計画的にやっているということですが、施設については市が責任を持たなければならないのですから、老朽化した施設で授業をやること自体が学力向上の障りにもつながっていくのではないかと思いますので、ぜひ予算を確保してもらいたいと思います。

図書館については昨年度に、平成33年度から中央図書館と地区館を一括して運営する指定管理者の導入を骨子とした、新たな運営方針を策定しました。いろいろ議論があり、教育委員会の中でも何度も議論して策定したわけですが、30年度からは新たな開館時間の運用や中央図書館の学習室の拡張などのサービス向上に取り組みます。また、管理運営面ではより効率的で安定した運営を行うために、中央図書館の施設管理と窓口業務などの委託業務を拡大したいと考えていますので、ぜひこの点についてもご理解いただいているいろいろな支援をお願いしたいと思います。

いろいろ申し述べましたが、学力向上のために、市のできることを集中して教育面に予算を投入していく必要があるのではないかと考えています。

○宮下教育委員 私からはICT教育の推進と特別支援教育の充実の2点について申し上げたいと思います。ICT教育の推進については、今日の東中学校の授業を見て一目瞭然ではないかと思えます。いろいろな地区では相当進められていますので、東久留米においても少し拍車をかけて進めていく必要があるのではないかと。そのようなことを私はいろいろな学校の授業を見ながら実感しているところです。先ず、そのような意味からしまして、平成29年度は東京都公立小・中学校ICT教育環境地域整備支援事業で第七小学校、本村小学校、そして今日の東中学校をモデル校として、電子黒板、実物投影機、タブレットパソコン等を導入して教育活動の充実を図っています。先ほど、東中学校の校長からも授業の効率化のこの話がありました。授業の見える化についても話がありました。例えば、一斉学習においては電子黒板や実物投影機を活用して挿絵や写真等を拡大したり、画面への書き込みをしたりすることで児童・生徒の興味や関心を高めることができます。今日の授業では画面への書き込みはありませんでしたが、映像で文章があればそこに子どもたちが自分の考え方を書き込むことができ、それを全員が共有して見ることができる。そのような一斉授業が行われていくのではないかと思います。個別学習においてはデジタル教材等の活用により、自らの疑問について深く調べたり、自分に合った進度で学習したりすることができると思えます。

さらに、もう一つ盛んに言われているのが協働学習です。協働学習ではタブレットパソコンや電子黒板等を活用してデータを共有すること、データを保存すること、またはデータを新たなものに変えることができます。「変える」ということはデータそのものを変えるのではなく、そのデータを基にしてグラフ化したり、図に表したりということです。今日のように子どもたちが統計的に処理したときに直ちに棒グラフが作成できるということになります。そうすれば一目瞭然に授業の効率化を図ることができるのではないかと思います。また、動画で記録ができることです。動画で記録ができるということは、リアルタイムで再現できるということです。ということは、何か自分がよく分かっていなかったけれどもその動画を後で見ることによって、「あ、そうか、見落としがある」ということが分かり、それこそ深い学びにつながっていくのではないかとこの気がするのです。ICTを進めていくことにより、学習活動を大きく広げることができると思っています。

また、図書教材と連携したソフトウェアや活用のための実践事例や指導用マニュアル、資料集、児童・生徒用活動シート、ビデオ教材などを組み合わせた教材も増えてきています。これらを授業で効果的に活用することで、より一層の教員の授業力と学習活動の充実を期待することができるのではないかと思います。「子どもを変えるのならば授業を変えなさい」ということが言われます。「授業が変われば子どもは変わる」ということが言えるのではないだろうか。その一つの方策としてICTは有効的に作用するということを考えています。

こうした教育効果を考えまして、全小・中学校のパソコン室に設置しているデスクトップパソコンの再リース満了を機にタブレットパソコンとキーボード、電子黒板等の整備に切り替え、ICT教育整備を図ることが重要と考えています。ぜひとも予算の確保をお願いしたいと思えます。

続いて、特別支援教育の充実について申し上げます。市立小学校の自閉症・情緒障害特別支援学級の児童数がだんだんと増えてきており、今後も増加が見込まれています。より良い教育環境で障害の特性に応じた適切な支援や指導を行うために、新たに神宝小学校に自閉症・情緒障害特別支援学級を設置したいと考えています。また、東京都発達障害教育推進計画では、平成33年度までに都内公立中学校に特別支援教室を設置することとしています。本市においても市立中学校に特別支援教室を開設し、支援を必要とする生徒への指導を開始

するため、必要な物品購入及び簡易な工事を行いたいと考えていますので、よろしくお願ひします。

○細川教育委員 私からは3点あります。初めに、入学準備金の入学前支給についてです。就学援助費における入学準備金については、多摩26市においても八王子市をはじめとする自治体で入学前支給への対応を始めています。現在、本市では入学後に支給していますが、就学援助受給世帯への状況を考えると、入学準備としてランドセルや制服などをそろえる必要な時期に、必要な援助が行えればと思います。ですので、入学準備金の入学前支給について予算措置をお願いしたいと考えています。

次に、放課後子供教室についてです。放課後子供教室については平成27年度から南町小学校、第九小、小山小の3校の小学校で開始しています。29年度はさらに3校、第六小、第七小、本村小に拡大し、現在6校で実施しています。さまざまな学習・体験・交流活動を実施してきて、児童の放課後の活動場所として非常に有意義な事業であることから、平成30年度以降も順次拡大し、最終的には全13校に広げていきたいと考えています。学童クラブとの一体運営については、引き続き市長部局と検討していくと事務局から聞いていることから、児童の活動場所の充実に向けて、ぜひとも必要な予算の確保をお願いします。

最後に、市民スポーツの振興という点から申し上げます。上の原の屋外運動施設の整備工事については野球・サッカー・グランドゴルフ・ターゲットバードゴルフ、ラグビーなど、幅広いスポーツの利用に供するものとして、各団体からの期待はとても大きいものとなっています。東京都のオリンピック・パラリンピックの補助金も活用し、整備に向けての必要な予算の確保をぜひお願いしたいと思います。

○並木市長 ただいま、各委員から30年度予算について、多岐にわたるご意見を伺いました。現在は各所管が次年度に必要な予算を要求している段階でして、今後、本格的な編成作業に入っていきます。そういったタイミングがありますので、この場では言及は控えさせていただきますが、予算編成には知恵と工夫を出していくことが大切だと常に思っています。先ずは貴重なご意見をいただいたことに感謝申し上げます。

◎閉会の宣告

○並木市長 以上で、平成29年度第3回総合教育会議を終了します。本日はありがとうございました。

(閉会 午後零時12分)

東久留米市総合教育会議運営要綱第8の規定により、ここに署名する。

平成29年11月27日

市長 並木 克巳(自署)

教育長 直原 裕(自署)